

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	青森	ハダニ類の発生が見られるほかは生育は良好。今後気温の上昇に伴い出荷量は減るものの、遮光資材、地中冷却等により採花数を確保し継続出荷に努める。	<p>現状</p> <p>主産地の愛知、長野、山形、北海道の改植も進み、数量は減少傾向。連休と母の日の需要で中値での安定した取引となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 各産地減少するものの、主産地は愛知、長野、北海道、山形。品種数も減り、ピンク、白、中心となる。赤、オレンジ、紫は品薄傾向となる見込み。 450,000 @55</p> <p>FAJ 改植が始まり出荷数量は減少傾向。長野、山形中心の入荷は変わらず。</p> <p>東日本板橋花き 愛知、福島、青森、北海道中心の出荷。暖地産が少なくなる。葬儀需要中心の動き。</p> <p>世田谷花き 小売りのうごきは鈍いが、業務・仲卸からは一定の引き合いの見込み。</p> <p>第一花き</p>
	山形	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は、気温の上昇や日射量の増加により、順調に推移し、開花は4月中下旬以降の高温・高日照の影響で前進傾向にある。 ・6月の出荷量は、株の改植作業が順次行われていること、作付面積が前年よりやや少なくなっていることから、前年の98%程度と見込まれる。 ・病害虫の発生は少なく、切り花品質は良好である。 	
バラ	青森	面積平年並み、気温が高く生育はやや前進傾向となっている。	<p>現状</p> <p>4月後半の気温上昇により、5月前半は数量増加した。輸入品も母の日に合わせて、出荷はあったが母の日以降は減少。 国産もピークを終え、5月中旬以降も減少傾向。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 5月上旬がピークだった為、6月前半より数量増加の見込み。 輸入も父の日に向けた出荷があるのみとなる。 2700,000本 @50</p> <p>FAJ 西南暖地の出荷量は徐々に減少。東北中心の入荷となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 各産地の物量が増えてきます。今後は大きなイベント等がなく少々厳しい販売が予想されます。</p> <p>世田谷花き 引き続き弱保合。高冷地産の品物がメインの販売となる。</p> <p>第一花き</p>
	群馬	気温上昇など天候変化とともに生育は旺盛になり、出荷量・上位等級が増加。利根沼田で生育前進傾向により母の日用がやや少なかった。雪害再建施設からの出荷も始まり、全体で出荷量微増。病害虫発生等もなく生育順調。	
	山梨	生育は順調で、昨年並に推移している。	
	大分	母の日以降無加温での生育となっている。6月からは徐々に増加見込み。品質の良くない圃場では一部、ほか品目への転換もありやや少な目。除湿は継続し、品質維持に努める。	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	青森	面積平年並み、気温が高く生育はやや前進傾向となっている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>引き続き品薄傾向であった為に各産地堅調な市況展開となった。 特に福岡、熊本と2番花の進みも悪く、4月前半の寒気の影響で5月に出るべき物が遅れがちとなっている状況。</p>
	千葉	①前作のストックの収穫終了がずれ込んだことによる、トルコギキョウの定植遅れや、天候不順による生育遅れの影響で、6月向けの出荷量は前年より減少する見込み。出荷物はボリュームに優れ、品質は良好。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き 暖地の2番花が増えてくる中、関東近郊の千葉、茨城も出荷が増え始める為、数量は例年まで追いついてくる見込み。販売の方もやや軟調な市況展開が見込まれる。</p>
		①生育は遅れ気味である。 ②サカタ・ミヨシの品種が中心だが、住化農業資材の品種も増えている。	<p>FAJ 東北など高冷地入荷予定。また西南暖地の2番花も入荷予定。ややまとまる見通し。</p> <p>東日本板橋花き 今後は、暖地の2番花、中間地の無加温地区が出荷されてくるが一気に増えることはない。</p>
	福岡	当初、生育は遅れ気味であったが、天候の回復もあり、生育は順調で遅れを取り戻しつつある。現在のところ、2番花は一部出荷開始となっているが、ピークは6月上旬～6月中旬となりそうで、出荷量も概ね例年並みとなる見通し。	<p>世田谷花き 千葉・高知・熊本など暖地に加え長野など高冷地物が増えてくる。</p> <p>第一花き</p>
	熊本	一部地域で若干生育の遅れが見られるが全体的には品質も良く順調。現在は2番花の出荷が始まっており、5月末ごろに再びピークがくる予想。相場を見ながら6月20日ごろまでは出荷がある見込み	
	大分	県全体としては終盤の月となり中旬以降は大きく減少見込み。杵築では前月までの開花遅れ分があり上位等級中心で上旬に集中する見込み。	
小ギク	青森	面積前年並み、好天推移により生育は1週間から10日程度前進している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> <p>上旬は沖縄中心の入荷だが、中旬以降減少し、関東近郊産地より徐々に入荷が開始。引き合いは、GWの連休期間で墓参り需要などあったが、連休以降については落ち着いた取引となる。</p>
	秋田	ここ近年にないほど生育が早く、5月連休頃からハウス物の出荷が始まっている(5/20末で7800本)。露地については、4月末から順調に定植が進んでいる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> <p>大田花き 関東近郊産地、東北産地、九州産地と下旬にむけて徐々に各産地より入荷が増加していく見通し。しかし、上・中旬については不安定な入荷が予想される為、大きい需要は無いものの安定した相場展開となる見込み。</p>
	沖縄	秋小ギクの出荷は上旬で終了の見込みで、一部で夏秋ギクの出荷がある。	<p>FAJ 高冷地の出荷も徐々に始まる見込み。西南暖地の出荷は終了。</p> <p>東日本板橋花き 沖縄産ほぼ上旬で終了、静岡、福島中心の入荷となる</p>
			<p>世田谷花き 茨城県産が増えてくる。沖縄県産に比べて100本入りが多く、単価も出やすいか。</p> <p>第一花き</p>